



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
10月13日
発行

第152回

「ヘリコプター・ベンの罪と罰」

～拝金主義から抜け出す米国～

初めに

今年のノーベル経済学賞は、米国の元FRB議長ベン・バーナンキ氏他2名が選ばれました。バーナンキ氏はリーマンショックの際にFRBの議長として問題解決に注力したことで知られています。このバーナンキ氏の受賞に異議を唱えるわけではありませんが、現在進行中の世界的なインフレについては、リーマンショック時のバーナンキ氏の対応にも原因があったと自分は考えています。今回は、そう考える理由についてお話しします。

ヘリコプター・マネー

リーマンショックへの対応としてバーナンキ氏が取ったのが、大量の資金を市場に流し込んで金融機関の破綻を防ぐ、といったものでした。まるでヘリコプターからお札をばら撒くようだ、という意味で“ヘリコプター・ベン”はバーナンキ氏の代名詞となりましたが、金融機関だけではなく、自動車メーカーもその対象となりました。GM・フォード・クライスラーの大手3社についても救済すべきという声は浮上し、議論されましたが結局3社とも救済されました。一方、個人については痛みを軽減する措置はなく、民主党・共和党それぞれの支持層から不満の声が上がったことが思い出されます。

このリーマンショックの経験に味を占めたのが米国の大手金融機関です。リーマン・ブラザーズこそ破綻しましたが、生き残った大手金融機関は、これでFRBは自分達が危機に陥ってもリーマンショックの時と同様に救済してくれると考え、従来よりも高いリスクを取るようになりました。それどころか、積極的に危機を煽って政府や中央銀行から資金を引き出すことも始めます。トランプ大統領の時には景気が弱いと煽り、トランプ氏にFRBが金融緩和するように仕向けたこともありました。

パンデミック

こうした危機を煽って政府や中央銀行から資金を引き出す米大手銀行の戦略が最大限に効果を発揮したのがパンデミックです。新型コロナという未知の脅威に対し、各国の中央銀行・政府は大量の資金を市場に注入しました。しかし、これはやりすぎで、世界的なインフレの原因となります。こういう年にバーナンキ氏がノーベル賞を受賞することは皮肉のようにも感じられます。このように、米国の拝金主義が今回のインフレの遠因となっていることは明らかです。ただ、バイデン政権下の米国は拝金主義から抜け出して左派的な方向に向かっています。自分は、そうした道を米国が選ぶよう願っています。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。